

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年3月29日

事業所名 ハートピア出雲スマイル

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6名	1名	・活動内容により、部屋を分けたり、密にならないようにスペースを開けて活動している。	・午睡時、曜日によっては人数が多くなる場合がある。 その日の実際の子どもの人数に合わせて、使用する部屋の空間を有効的に使用するよう声を掛け合い調整を行っている。
	2	職員の配置数は適切である	1名	6名	・特性やねらいに応じて1:1や2:1で支援を行うなど工夫した配置。 ・職員、ボランティアの連携で児童の支援が充実する配置となるように人員配置を考えている。	・職員の休みや会議等での外出・感染症対策の自粛体制を整えると、ボランティアの方に託児に入ってもらった状態である。 ・必要な児童に対して、必要数の職員配置がされているが、職員の補充検討は必要である。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7名	0名	・活動に応じて、部屋を広く使ったりパーテーションで区切り使ったりと、環境設定をして整えている。 ・分かりやすく構造化し、個々に合わせた視覚支援などを加え、分かりやすく集中しやすい環境を考えている。	・利用者や変わりゆく環境に応じてより良い環境にしていけるために会議を行っています。また随時、職員間で何か変更や追加等ある場合に情報共有を常に行っています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7名	0名	・常に気付きを共有し、子どもに合わせた空間づくりを心掛けている。	・新型コロナウイルス感染症予防対策をマニュアルに沿って感染予防を徹底し、換気や消毒・清掃を十分に行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6名	0名	・都度、報告や相談をしたり、支援会議や記録回覧で業務改善の共通理解をしている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7名	0名	・お子さんの様子を懇談や送迎時の口頭以外にも連絡ノートに活動写真を貼る等工夫している。	・前年の評価結果からの改善を意識して、頂いた意見を積極的に取り入れるようにしている。 今後も引き続き保護者のニーズに合わせて改善できるように取り組んでいく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6名	0名	・ホームページに掲載中。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2名	2名		・現在は評価機関による第三者による評価は実施していない。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5名	2名		・コロナ禍で研修の中止や人数制限で機会は減ったが、年間計画では確保されていた。 研修に出かけたりオンラインで受けた内容については内部研修で共有している。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7名	0名	・子どもと保護者のニーズを把握し、必要な支援を行っている。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6名	1名		・標準化されたアセスメントツールを使用する事もあるが頻度は少ない。アセスメントをできるだけ行っていけるよう機会を作っていく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上	6名	1名	・更に家庭に繋がるような家庭支援を行っている。	・関係機関との連携の狙いに家庭、地域(ケース会など)の支援内容を必要に応じて設定しているが、家族支援、地域支援についての支援内容は、あまり支援計画に選択されていない。必要性の有無を支援計画作成会議で検討していく。

適切な支援の提供

13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7名	0名	・療育前に計画を確認するなどして計画に沿った支援を行えるようにしている。	
14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7名	0名		・季節の遊びや行事は発達に合わせたものを話し合っている。 ・サーキット、プール、行事など季節や子供たちの姿から活動を考えていき、個々に合わせた楽しみ方を大切にしている。 ・行事事に担当者を決めて複数人で計画している。 ・支援会議や日々の療育の中で変更したい時、相談しながら取り組んでいる。 ・担当者はじめ、職員間でよりより立案となるように考えを出し合ったり助言しあっている。
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7名	0名	・新しいことに抵抗のある児もいるため、固定化しすぎないように気をつけながら取り入れている。 ・季節の行事等組み合わせで個々のレベルに合った療育内容を工夫している。	・今年は感染症の関係で例年の行事を例年通り行うことは難しかったが、形を変えたり、スマイルの中で楽しんだり状況に合わせた楽しみ方を工夫する。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	7名	0名	・適宜組み合わせを支援計画に基づいて対応している。	
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7名	0名	・始業時間が職員により違うため、開始前に難しい場合には前日や朝礼ノートで確認している。また、活動の中でも職員間で声をかけあい全員が把握しやすくしていくようにしている。	
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5名	2名	・直接、打ち合わせができない時には、療育記録で共有できるようにしている。直接担当していない子どもについても気付いたことは記録している。	
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7名	0名		
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7名	0名	・複数でモニタリング、個別支援計画作成会議を行い、確認し合いながら個々に対しての必要な支援を判断している。	・半年に1回、モニタリングを行い計画の見直しを行っている。担当を一覧にして話し合いながら判断している。
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7名	0名	・なるべく子どもの状況に精通したスタッフが参加しているが、難しい場合には事前に担当して児の様子を見たり、児発管が情報共有して参加している。	
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6名	1名		・近年は子育て支援課等より児童の紹介が少なく、あまり連携する機会が少ない。必要に応じて連携していく。
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7名	0名	・重心児が通う関係機関の方の見学や共有ノート等で情報共有を行い、連携して支援を行っている。 ・相談支援専門員を通じて担当者会議等行い情報を共有している。	

関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7名	0名	・医師の指示書に基づいて処置を行っている。退院後には情報提供書をいただいている。 ・重心児の中で特に発作がある子は、定期的な受診や検査結果は保護者から聞き、発作時の連絡対応は職員全員が把握している。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7名	0名	・保護者と作成するサポートブックや情報提供書をもとに移行会議等で直接就学先等関係機関への申し送りを丁寧に行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7名	0名	・同上	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6名	0名	・必要に応じて連絡したり、連携ノート等を利用したり見学等も行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2名	5名		・直接、施設内での交流の機会はないが、在園児はそれぞれ交流されている。在宅児へは地域の交流の情報をお伝えできるとよい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3名	3名		・コロナウイルスの影響もあり、必要な会議以外には参加していない。参加した職員から情報共有をしていく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7名	0名	・6か月に一度のモニタリングの他に日々の連絡帳や保護者との会話等で随時、課題確認、共通理解を図っている。その他、必要に応じて懇談などの機会を設けている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3名	3名		・例年実施しているが今年度はコロナ禍につき実施されていない。今後、続くようであれば資料(おたより)など伝える手段も検討していく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7名	0名		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7名	0名		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7名	0名	・保護者の様子(送迎時等)をみながら必要に応じて助言、支援を行っている。 ・気軽に話せるような和やかな環境と対応を心掛け、いつでも対処できるよう職員間で連携を図っている。	

保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3名	4名		・今年度はコロナ禍につき実施されていない。 父母の会などが開催されている保護者からの情報を発信したり、保護者交流の場の提供を検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7名	0名	・相談を受けた場合、一人で対応していくのではなく職員間で周知し迅速かつ適切に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7名	0名		・定期的な発行については頻度が少なくなる為、連絡帳の写真掲載やホワイトボード掲示で情報発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意して	7名	0名	・個人情報に関する書類の閲覧は、不透明なファイルを使用している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7名	0名	・絵カードや文字で伝えたり、選択で気持ちを伝えることが出来るようにしている。 また、保護者に合わせ視覚情報も入れながらお便り等の作成を行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3名	4名		・今年度はコロナ禍につき実施していない。今後、続くようであればどのような形で地域交流をしていくのか検討していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7名	0名	・マニュアルに基づき定期的に訓練を行い、振り返りの評価・反省を行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7名	0名	・定期的に訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7名	0名		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7名	0名	食事の個別スペースを確保したり床や水道などの付着物除去をしたり環境面でも十分に留意している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7名	0名		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7名	0名		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7名	0名		